

旅好き・本好きな女性たちは、心豊かな旅先時間を過ごしていた

この夏、私はこの本を持って旅に出ます!

慌ただしい日常から離れる旅先ほど、本好きな女性にとって、その内容が心にしみるときはありません。本と旅を愛する女性たちのこだわりが詰まった旅本、選び、ぜひ、あなたの夏旅を有意義に過ごすための参考にしてみてください。



地球の裏側を目指して、
大自然が広がるパタゴニアへ
「何度も読んで憧れた
壮大なロケーションの地で、
再読したい名作『パタゴニア』」



トラベル・フォトグラファー
山口規子さん



©AFLO

アルゼンチンとチリの両国にまたがるパタゴニアは、大規模な水河や国立公園など、神秘的な自然形態が、今なお色濃く残る希少な地。

「仕事柄なのか、見果てぬ地の風景や色など、あれこれ想像できる本が好き。だから、つつい外国作品ばかりを選んでしまいます。なかでも、過酷な自然環境と共存して生きる人間のロマンを描いた『パタゴニア』は、写真家の好奇心にスイッチの入る作品。そんな名作の題材になった地で、この本を再読する贅沢を味わってみたい! またなぜか、旅先では甘くないサガンの恋愛小説を読んで眠ります(笑)」

●機内で ミステリー小説『天使と悪魔』著=ダン・ブラウン 訳=越前敏弥(角川文庫 上・中・下巻各¥620) ●公園で 紀行文『パタゴニア』著=ブルース・チャトウィン 訳=芹沢真理子(めるくるまー絶版) ●ベッドで 恋愛小説『ブラームスはお好き』著=フランソワーズ・サガン 訳=朝吹登水子、『悲しみよ こんにちは』著=フランソワーズ・サガン 訳=河野万里子(共に新潮文庫 ¥460)

Profile

文藝春秋の写真部にて、カメラマンとしての活動をスタートし、1997年に独立。ファッション誌を中心に、女性の旅心を刺激するドラマティックな写真が人気。一年の大半を海外撮影に費やすほど、根っからの旅好き。

日常の雑事の心配から離れて
「ザ・ウィンザーホテル洞爺」へ
「旅の始まりは、ハラハラ
ドキドキさせてくれる
サスペンス小説の読破から」



エッセイスト・服飾史家・明治大学特任教授
中野香織さん

「出張では資料本以外はほとんど持っていけないのですが、休暇では、長い移動時間を忘れさせてくれるサスペンス小説を持参。特に、ジェフリー・アーチャーはピカイチ! ほかに、あまりにも奇想天外な発想と多大な情報量で、一度では頭に入らなかった『アラマタ美術誌』を、時間をかけてじっくり再読してみたい。そして一日の最後には、三島由紀夫の名文のリズムを頭にインプットして就寝します」

●機内で サスペンス小説『誇りと復讐』著=ジェフリー・アーチャー 訳=永井 淳(新潮文庫 上巻¥820・下巻¥780) ●ホテルで 美術史の謎に迫る『アラマタ美術誌』著=荒俣 宏(新書館 ¥2,940) ●ベッドで エッセイ集『不道德教育講座』著=三島由紀夫(角川文庫 ¥660)、『行動学入門』著=三島由紀夫(文春文庫 ¥500)

写真協力/
「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」



洞爺湖と有珠山を見渡す、北海道の人気リゾートホテル。「憧れのホテル。休暇がとれたら、子供たちとゴルフでも回ってみたい」と中野さん。

Profile

英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て、文筆業に。ダンディズム研究の第一人者であり、服飾に関する著書多数。近著に、『モードとエロスと資本』(集英社新書)、『英和ファッション用語辞典』(研究社)ほか。

